

景観マニュアル

～千田野の自然と景観を守るために～

千田野の地形を活かした美しい農耕地風景を今後も持続できるよう、整備に努め守り続けましょう。

～歴史ある石碑等の保全・監理～

地区内の数ある石碑等を後世へ伝えるため地元住民へ周知し大切に守りましょう。

年3回の神明神社の清掃活動等、地域活動にも積極的に参加しましょう。

～千田野の景観を観光資源へ～

枝打ち伐採、歩道の整備や案内看板の設置など観光資源として利用価値を高めるため、整備を進めましょう。

今後もこのマニュアルが千田野地区にとって有効に活用されるために

- 自治会のサポートにより本マニュアルの周知に努めます。
- 地域の集まり等にて、本マニュアルについて対話の場を設け、より良い千田野の景観について語り合います。
- 本マニュアルに基づいた景観形成活動に積極的に参加します。



～白鳥千田野地区～

千田野地区は毘沙門岳の麓に広がる、静かな山里です。かつては大きな池であったといわれるこの土地はいつの時代か山津波となって抜けていき、水がなくなると伝えられています。先祖たちはこの池の跡地を開墾して田や畑を造り、現在の千田野の地形ができたといえます。そんな千田野の独自の景観を地域のみなさんで活かしていけるようマニュアルを定めました。

及世代に残したい千田野の景観



① 観音様



② 馬頭観音



⑥ 神明神社



④ 毘沙門様石碑



⑤ 宝暦義民碑



⑥ 西山野の俣谷滝と西山滝ヶ滝



⑦ 千田野から見下ろす風景

- ① 嘉永4年(1851年)観音道の山にバケモノが出るといわれ、観音様を祀ったと云われている。この観音様は4つの手があることから四ツ手観音という。
- ② 牛馬を飼育していたころ、年に1回定期的に集まり診察や治療を受けていた場所である。安政7年(1860年)建立された。
- ③ 千田野の先祖により天照皇大神宮のお札を守り神として祀ったため、この社を神明神社と呼んでいる。
また、美並町粥川より虚空藏菩薩を受け祀ったため、うなぎを神の使いとして尊んでいた。
- ④ 毘沙門様の石塔には(天下泰平・日月清明・百穀成就・諸人快樂)と記され、神明神社の縁日には消防団がお参りする事が恒例となっている。
- ⑤ 尾根を挟んで2本の滝が並列しており、今後新たな観光資源として期待できる滝である。
- ⑥ 宝暦8年(1758年)、郡上一揆で郡上藩と最大の衝突となった歩岐島騒動に深く関連する帳元の中核を務めた四郎左衛門の頸彰碑。
- ⑦ 山の中腹に位置する千田野ならではのビューポイント。白鳥の町を見下ろすことができる。

